

歴史シンポジウム「鎌倉時代の上の町～上京のはじまり～」

基調講演 「鎌倉時代の京都と貴族」

長村祥知

はじめに

- ・平安京からの変化。政治史の視角。治天の君や有力貴族など、政治権力の主導による都市改変
- ・皇族・貴族による邸宅の造営・利用。とくに一条周辺の地。上京

一 後鳥羽院の時代

1 平安京周縁地域

- ・御室：9世紀末、宇多天皇の頃から長期間、全体構想なく段階的に造成。平安京の地割りが意識されるも不整合多し。平安京周縁の北西で先駆的に開発された地域
- ・白河地域・鳥羽殿・法住寺殿：12世紀、白河院・鳥羽院・後白河院主導の短期・大規模造営
東と南への拡大、中世都市京都の成立
- ・山科殿(沢殿)：後白河法皇の院御所 寵妃丹後局 山科教成。後白河法皇御影堂
- ・内乱の時代 1159 平治の乱。1160 源頼朝、伊豆に配流。1179 治承三年政変、平清盛の権力掌握
1180 源頼朝・木曾義仲ほか、各地で反乱。 1185 壇之浦合戦、平家滅亡
- ・13世紀初頭、後鳥羽院：白河地域・鳥羽殿・法住寺殿(近辺)の維持 + 水無瀬殿。多角的経営
建保五年(1217) 淀魚市を水無瀬殿に移設。この頃から水無瀬殿の重点的経営へ

2 平安京北部

- ・平安宮内裏：後鳥羽の子、土御門・順徳天皇がしばしば行幸
承久元年(1219)焼亡 造営、諸国に用途賦課。承久の乱の一因
- ・**五辻殿**：後鳥羽上皇の京中御所の一つ。坊門信清が造営。元久元年(1204)移徙
建永元年(1206)2/22 慈円、薬師法。承元元年(1207)7/白河泉殿に移建
*主たる京中御所は**高陽院殿**(中御門南、堀川東)
承久2年(1220)白河の火災、最勝四天王院を五辻殿に移築
建保五年(1217)以降、水無瀬殿と、平安京北部の平安宮内裏・周辺御所の重視
承久三年(1221)北条義時追討を命令(承久の乱)。敗れて隠岐へ。首都構想は途中で断絶

二 持明院家・一条家の邸宅

1 藤原氏北家頼宗流、一条家・持明院家の祖

- ・基頼(1040~1122)：陸奥守・鎮守府將軍等。康和年中(1099~1104)持仏堂、持明院
- ・通基(1090~1148) 天治年間(1124~26) 持仏堂を安楽光院と改称
邸宅、**持明院第** 基家 北白河院陳子(後高倉院と婚姻) 室町院 伏見院[持明院統]
- ・通重(?~1149) 持明院家の祖

2 一条能保(1147~1197)

- ・**一条室町第**(一条大路北、室町小路末西)：藤原基頼? 通基? 妻 待賢門院女房 一条 能保
- ・父通重 1149 没。母方の閑院流徳大寺家の庇護下。近親の持明院家・西園寺家
- ・統子内親王(上西門院 1126~89。待賢門院の子、後白河天皇の同母姉)に近侍
*源頼朝(1147~1199)：統子の皇后宮権少進・女院蔵人。1159 平治の乱、1160 伊豆に配流
1170 年代、能保と源義朝女(頼朝同母妹) 婚姻。1176 高能誕生
- ・治承四年(1180)の拳兵以降、頼朝が信頼する数少ない貴族。能保女を後鳥羽天皇の乳母に推挙
文治3年(1187)頃、朝幕関係が融和的に。のち後白河院の側近
建久3年(1192)後白河没、3/19 素服を賜る、能保と源通親・山科実教・坊門信清ら

平治の乱以前から上西門院に近侍していた諸家の結束。1170年代に衰勢の一条能保と源頼朝妹との姻戚関係が、1180年代以降の頼朝勢力の発展の過程で双方の権力基盤として機能。一条に邸宅

三 西園寺家の邸宅

1 西園寺公経(1171~1244)

- ・父実宗(1149~1212)。1206出家、五条大宮第を公経に譲るか。1212六条坊門坊城第で没
- ・建久2年(1191)6/2能保、一条室町 閑院西町。6/25九条良経、能保女と婚姻、一条室町第に
- ・1190年代、公経と一条能保女全子、婚姻。1194実氏誕生。以後、「一条第」を本所とする
- ・**一条室町第(一条東殿)**：能保 全子 綸子(九条道家室) 藻壁門院 猶子 一条実経
- ・*承元2年(1208)4/25九条道家と公経女綸子、婚姻。一条室町第と九条富小路第を使用
- ・**一条町口(町尻)第(一条西殿)**：西園寺公経 承久3年(1221)10/1焼失、再建。綸子に伝領
- ・*やがて一条東殿・一条西殿は九条道家・教実が占住
- ・嘉禄2年(1226)10月、公経、一条室町第の東に**今出川第**を新造。以後、嫡流子孫に伝領
- ・承久2年(1220)仲資王の別業を入手、**北山第**。元仁元年(1224)西園寺の御堂供養。実宗八講公経は北山第に一時的滞在。寛元2年(1244)8/25危急により北山第に移住し、8/29没

2 西園寺実氏(1194~1269)以降

- ・1221承久の乱の際、西園寺公経・実氏、後鳥羽院に拘禁される
- ・乱後の北条氏からの信頼。関東申次：鎌倉幕府との意思伝達。天皇家との婚姻。絶大な権力
- ・**北山第**：実宗・公経の八講(追善)など仏事。実兼以後、出家後の当主の居所。文庫
- ・**今出川第**：西園寺家嫡流に継承。后妃・女院の産所に利用
- ・冷泉富小路第(冷泉南、富小路東)：1225実氏が居住。四条・後深草など里内裏・院御所
- ・常盤井第(春日南、京極東)：寛元4年(1246)4/17以前から実氏が居住。実氏=常盤井入道実兼期以後、里内裏・院御所としても利用。正和4年(1315)4/13公衡が居住
- ・菊第(菊亭)：文永2年(1265)10/17実氏の第

3 西園寺家の衰退とその後

- ・庶流 洞院家の抬頭。建長7年(1255)10/27後嵯峨院、嵯峨龜山殿に移。洞院実雄が造営
 - ・建武2年(1335)6/22西園寺公宗、後醍醐に謀反を企て北山殿で捕縛。子の実俊、家は存続
 - ・足利義満 北山第 北山殿・鹿苑寺金閣、菊亭 室町殿
- 一条家と持明院家が本拠としていた一条北辺の地に姻族の西園寺家も定着。さらに北山や二条へ

おわりに

上京：平安末・鎌倉前期に、持明院・一条・西園寺諸家の邸宅が所在し、彼らが偶発的な政治的成長をとげる。後鳥羽院も政策的に重視。平安京北部の重点化と北西部への拡大の基点となる

【参考文献】

- 上村和直「御室地域の成立と展開」(『仁和寺研究』4、2004年)
- 川上貢『日本中世住宅の研究』(墨水書房、1967年)
- 塩原浩「頼宗公孫一条家の消長」(中野栄夫編『日本中世の政治と社会』吉川弘文館、2003年)
- 鋤柄俊夫『中世京都の軌跡』(雄山閣、2008年)
- 角田文衛「一条室町第」(『角田文衛著作集 四 王朝文化の諸相』法蔵館、1984年。初出1974年)
- 長村祥知「中世前期の在京武力と公武権力」(『日本史研究』666、2018年)
- 長村祥知「後鳥羽院と平安京周縁地域」(『立命館文学』677、2022年)
- 野口実・長村祥知・坂口太郎『京都の中世史3 公武政権の競合と協調』(吉川弘文館、2022年)
- 山岡瞳「鎌倉時代の西園寺家の邸宅」(『歴史文化社会論講座紀要』14、2017年)
- 山田邦和『京都の中世史 7 変貌する中世都市京都』(吉川弘文館、2023年)

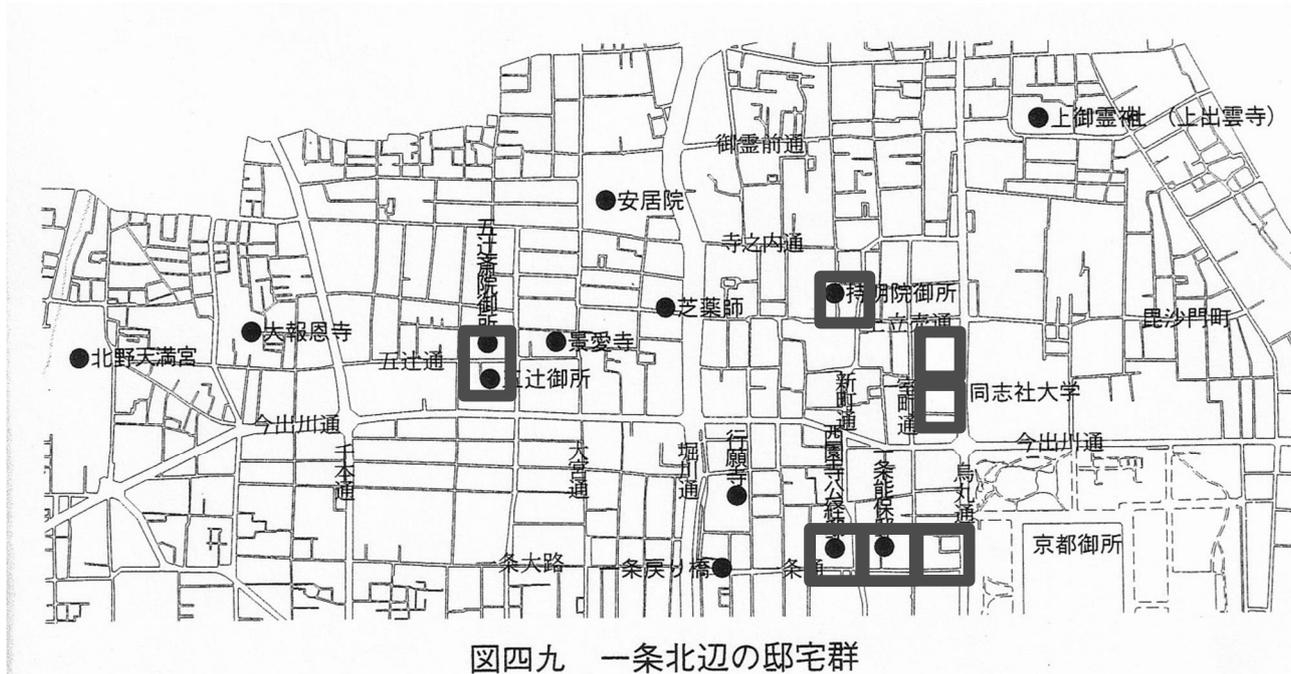
【系図1】

白河 堀河 鳥羽 崇徳
 近衛 二条 六条
 後白河 高倉 安德
 統子^{上西門院} 後高倉 後堀河 四条
 後鳥羽 土御門 後嵯峨 後深草 伏見 後伏見[持明院統]
 花園
 順徳 仲恭 龜山 後宇多 後二条[大覚寺統]
 後醍醐

【系図2】

高倉 後高倉 (母北白河院) 後堀河 四条
 後鳥羽 順徳
 藤原忠実 頼長 忠通 近衛基実 慈円 九条兼実 良経 一条能保 東一条院立子
 藤原仲光 女 通基 通重 基家 北白河院 女 道家
 【持明院】 女 高能 藻壁門院嬪子
 (西園寺公経母) 全子 4 頼経
 源為義 義朝 女 綸子 実氏 公相 実兼 公衡 実衡 公宗 実俊
 1 頼朝 西園寺公経 実雄【洞院】 兼季【今出川】
 2 頼家
 3 実朝
 北条時政 政子 義時 泰時

【図1】 * 鋤柄俊夫『中世京都の軌跡』(雄山閣、2008年)112頁 に加筆



図四九 一条北辺の邸宅群

【図2】 上：山田邦和『日本中世の首都と王権都市』（文理閣、2012年）16頁の図に加筆
 下：大村拓生『中世京都首都論』（吉川弘文館、2006年）129頁の図に加筆

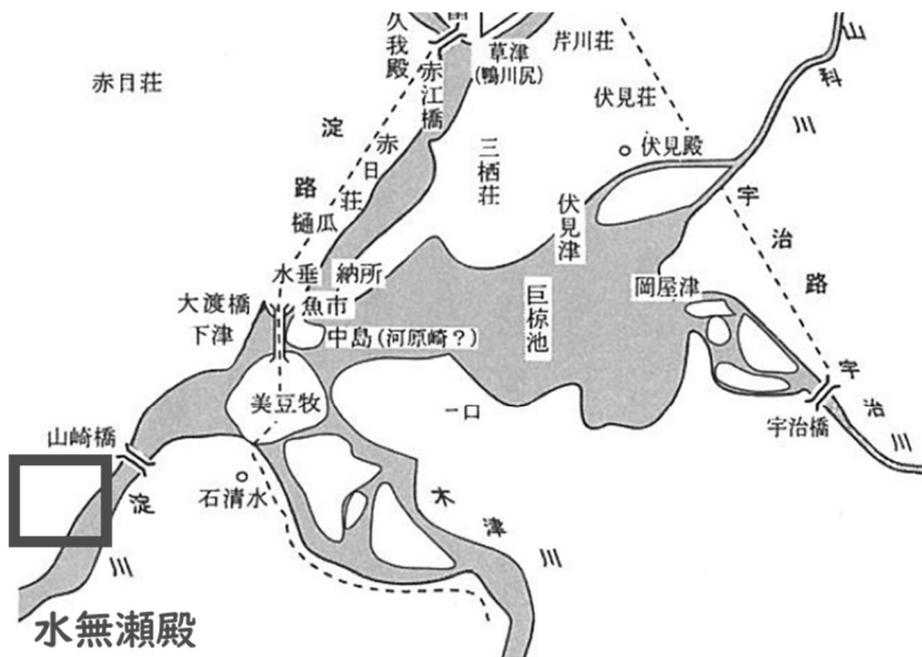
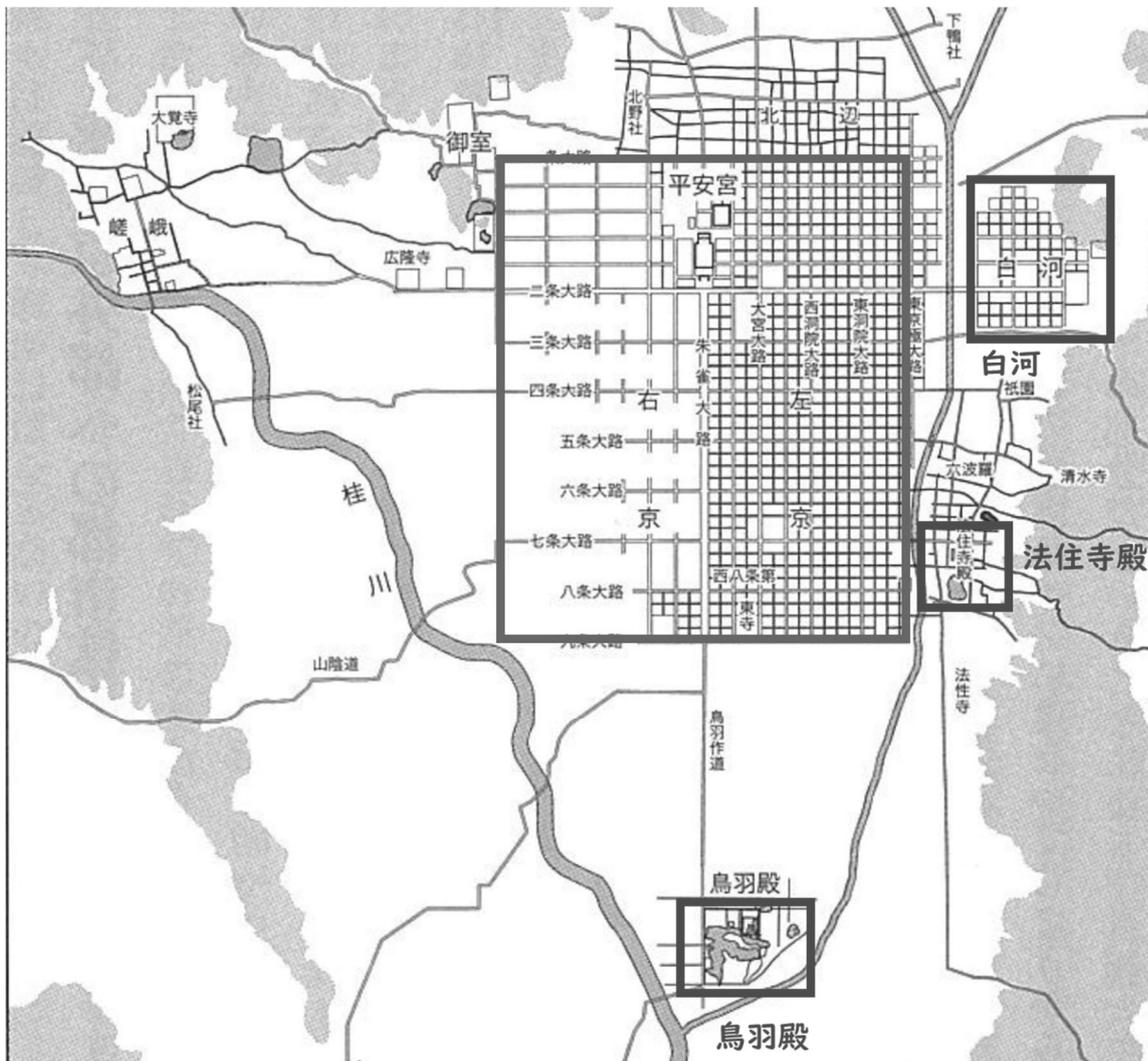
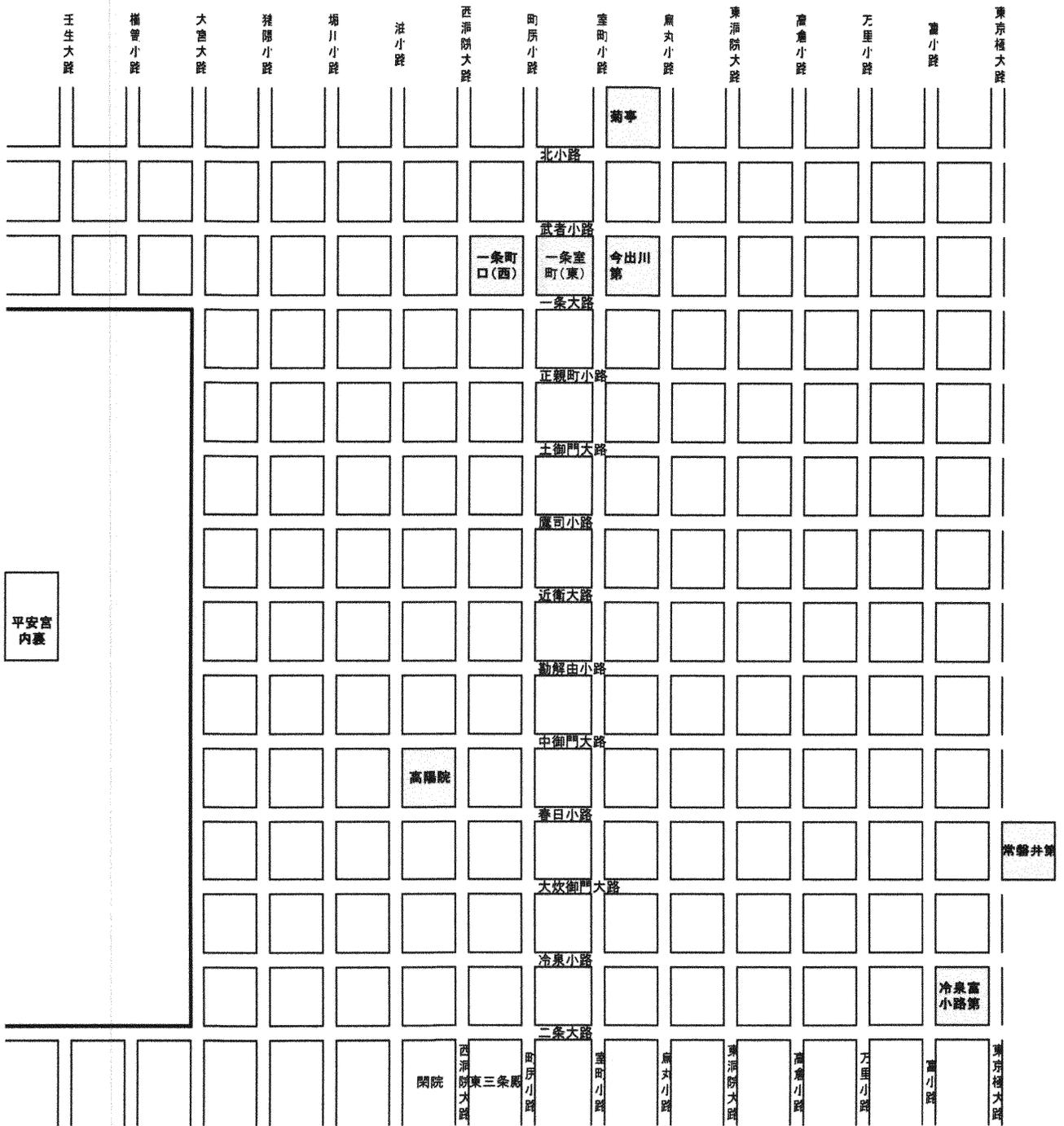


図3 鳥羽殿周辺略図

金田章裕「遊獵空間としての野」（『足利健亮編『京都歴史アトラス』中央公論社、1994年）を参照して大村作図。



【関連年表】

院政	天皇	西暦	和暦	一般事項	一条家・西園寺家の人物関係	一条第、北山第、今出川第	冷泉富小路第、常盤井第
7	後白河	1156	保元元	鳥羽院没。保元の乱			
		1157	二				
8	後白河	1158	三				
		1159	平治元	平治の乱			
11	高倉	1160	永暦元	頼朝、伊豆に配流			
		1176	二		一条高能誕生(能保と頼朝妹の婚姻は1170年代前半か)		
11	高倉	1177	治承元				
		1178	二				
11	高倉	1179	三	平清盛による政変			
		1180	四	源頼朝・木曾義仲ら挙兵し、全国的内乱			
1	後白河	1181	養和元				
		1182	寿永元				
1	後鳥羽	1183	二	平家都落ち。木曾義仲入京			
		1184	元暦元				
1	後鳥羽	1185	文治元	壇ノ浦で平家滅亡			
		1186	二				
3	後鳥羽	1190	建久元	源頼朝上洛			
		1191	二		一条能保女、九条良経と婚姻		
3	後鳥羽	1192	三	後白河院没			
		1193	四				
1	後鳥羽	1194	五		西園寺実氏誕生(公経と能保女全子の婚姻は1190年代初頭か)		
		1195	六				
1	後鳥羽	1196	七				
		1197	八		一条能保、没		
1	土御門	1198	九	後鳥羽院政開始	一条高能、没		
		1199	正治元				
1	土御門	1200	二				
		1201	建仁元			一条第、公経の「本所」として造作	
11	順徳	1206	建永元		藤原実宗、出家		
		1207	承元元				
11	順徳	1208	二		西園寺公経女綸子、九条道家と婚姻		
		1209	三				
11	順徳	1210	四				
		1211	建暦元				
11	順徳	1212	二		藤原実宗、六条坊門坊城第で没		
		1217	五	淀魚市を水無瀬殿に移設			
7	後清	1218	六				
		1219	承久元	平安宮内裏焼失			
7	後堀河	1220	二	最勝四天王院を五辻殿に移築		公経、仲資王の別業を入手(北山第)	
		1221	三	承久の乱			
7	後堀河	1222	貞応元				
		1223	二				
5	後堀河	1224	元仁元			北山西園寺の御堂供養	
		1225	嘉禄元				公経の冷泉富小路第
5	後堀河	1226	二			公経、今出川第を新造	
		1227	安貞元	平安宮内裏焼亡、廃絶			
10	後堀河	1232	貞永元				
		1233	天福元				
10	後堀河	1234	文暦元				
		1242	三				
1	後嵯峨	1243	寛元元				
		1244	二		西園寺公経、北山第で没		
1	後嵯峨	1245	三				
		1246	四				実氏の常盤井第
1	後深草	1247	宝治元				
		1248	二				
11	後深草	1259	正元元	閑院内裏焼亡、廃絶			